

成田観光館に「しゃちほこ」を寄贈

重厚かつ繊細な匠の技

魔よけとして屋根の装飾に使われる「鬼瓦」を長年、下総地区で作り続けてきた渡辺博さん(土屋)が2月29日、「しゃちほこ」を成田観光館に寄贈しました。かつて下総地区では20軒近くで瓦を焼いていたそうですが、鬼瓦を製造してきたのは渡辺さんの工場のみ。今回、寄贈していただいたのは雄・雌一對のしゃちほこで、制作には半年を要したそうです。贈呈式で渡辺さんは「多くの人が訪れる観光館に展示していただくことになり光栄です。外国の人にも日本にこのような技術があることを知ってもらいたい」と話していました。



小泉市長から感謝状を手渡される渡辺さん

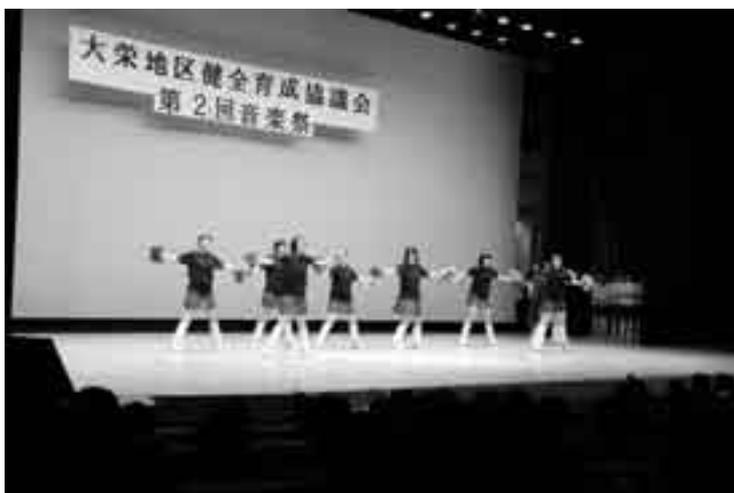
理科支援員等配置事業

リニアモーターって何だ？

企業関係者など外部人材を講師に招き、理科授業の充実を図ろうと県教育委員会が進めている「理科支援員等配置事業」による特別授業が2月26日、加良部小学校の6年生を対象に行われました。授業のテーマは「リニアモーターって何だ?」。児童たちは、(株)日立製作所で長年技術者を務めた保坂俊雄さんから電流・磁界・力の相関関係を示した「フレミングの左手の法則」とリニアモーターの仕組みを簡単な装置を使った実験を交えて教わりました。保坂さんは「子どもたちの理科離れが懸念される中、こうした実験をきっかけに少しでも興味を持ってもらえれば」と話していました。



解説用の模型を食い入るように見つめる児童たち



オリジナルTシャツを着てチアリーディングを披露する大栄中学校3年生

大栄地区音楽祭

音楽を通じて世代間交流

大栄地区健全育成協議会が主催して3月2日、大栄公民館で音楽祭が行われました。この音楽祭は、音楽を通じて世代間の交流を図ることを目的としたもので成田国際高校吹奏楽部をはじめ、小中学生や老人クラブなどが多彩な演奏やダンスなどを披露。それぞれの出し物が終わるたびに、客席から大きな拍手が沸き起こりました。

美しい歩き方を身に付けて

普段の歩き方を見直して、楽しみながらひざ痛や腰痛の予防、メタボリックシンドローム対策に役立ててもらおうと3月4日、大栄公民館で「ひざ・腰痛予防ウォーキング教室」が行われました。講師の駒崎優さんは「足裏を均等に使う、視線を下げない、つま先をしっかりと上げてかかとで着地、背中を反り返らせない」など「美しい歩き方と健康ウォーキング10カ条」を参加者に一つひとつ、丁寧に指導。約2時間指導を受けた参加者の一人は「友人から紹介されて参加しました。教えてもらった通り歩いたら、腰痛が軽くなったように感じました。日常生活の中にも取り入れて正しい歩き方を定着させたいです」と息を弾ませていました。



「視線を水平に」。一つずつ歩き方を学ぶ参加者



のこぎりを巧みに使って氷柱を刻み込む出場者

美しく透き通る芸術作品が次々に

全国各地から腕自慢が集まり技術を競う「氷の彫刻展」が3月2日、成田山新勝寺で行われました。出場者たちはのみやのこぎりを巧みに使って、人の背丈ほどもある氷を刻み込み芸術的な彫刻を創作。参拝や梅まつりに訪れた人たちは、美しく透き通る芸術作品にしばし立ち止まって見入っていました。

「学びの輪」を広げていきたい

生涯学習インストラクター全国大会・表彰式が2月16日、都内で開催され、市内からは長年の地道な活動が認められた、新井とみ子さんが「生涯学習活動功労賞」を受けました。生涯学習インストラクターは、地域での学習活動やボランティア活動の推進役として活躍が期待される文部科学省認定の資格。全国で現在約25,000人が登録し、さまざまな分野で活動しています。今回の受賞を受け、新井さんは「これを励みにこれからも学びの輪を広げていきたい」と意気込みを話しています。



大正琴を通じてお年寄りとおふれあう新井さん(右手前)